

## 北海道農業再生協議会水田部会における 令和3年産の需要に応じた米生産の取組経過

R3. 5. 21 北海道農業再生協議会水田部会

- 令和3年3月18日、北海道農業再生協議会水田部会において、3年産主食用米の生産量を前年実績から2万トン、面積で3,600ha削減し、飼料用米等へ作付転換することを決定。
- 新たな米政策が開始された平成30年産以降の転換面積3,300haを大きく上回る主食用米の減産となるが、国は、水田フル活用に必要な施策として、R2補正とR3当初を合わせ、対前年度350億円増の3,400億円と例年以上の予算を措置したところであり、これら国の施策を最大限に活用し、関係機関・団体が一体となって取組を推進。

時期	取組内容
2年12月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 道水田部会（第2回）の開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年産米「生産の目安」の設定</li> </ul> </li> </ul>
2年12月16～18日 (3回)	◆ 地域担当者説明会で、地域協議会ごとの目安の提示・説明と、地域での目安に即した米生産の推進を周知
3年1月18日	◆ 地域担当者説明会で、全国の需給動向や、産地交付金と水田リノベ事業の活用による需要に応じた米生産の推進を周知
3年2月4, 8, 10日 (3回)	◆ 地域協議会向け個別相談会で、産地交付金と水田リノベ事業の活用を推進
3年2月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 道水田部会（第3回）の開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独自調査による主食用米等の作付動向について報告（主食用米作付面積は2年産実績から462ha減少）</li> <li>・ 飼料用米の一層の作付推進、産地交付金（道枠）による支援の充実を図ることを決定</li> </ul> </li> </ul>
3年3月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 道水田部会（第4回）の開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主食用米から飼料用米等への作付転換（2万トン、面積換算で3,600ha）に取り組むことを決定</li> </ul> </li> <li>◆ オール北海道での取組となるよう地域協議会へ取組の推進を依頼</li> </ul>
3年3月24日	◆ 地域担当者説明会で、国が予算措置している3,400億円の水田フル活用関連施策を最大限に活用し、主食用米から飼料用米等への作付転換に取り組むよう協力依頼
3年4月26日	◆ 地域担当者説明会で、水田リノベーション事業の採択結果や転換作物拡大加算について重点的に説明し、特にこれらの補助金・交付金を最大限に確保・有効活用するよう周知

# 令和3年産主食用米の作付転換の取組状況等（5月15日現在）と今後の対応について

R3.5.21 北海道農業再生協議会水田部会

## 1 令和3年産主食用米の作付転換の取組状況等調査結果について

- R3.3.18開催の道再生協水田部会で決定した「令和3年産主食用米から飼料用米等への作付転換の取組」の状況を把握するため、全道118の地域協議会の協力の下、独自に取組状況等調査を実施（今後の作付意向等を加味した面積を調査）
- 集計結果は次のとおり
  - （1）水稻全体の作付は、2年産実績に比べ1,096ha減の103,576haの見込み
  - （2）主食用米の作付は、2年産実績に比べ4,760ha減の90,540haの見込み（▲5.0%減）  
うち主食用うるち米の作付は、2年産実績に比べ約4,400ha減の84,800haの見込みで、作付転換の推進目標（3,600ha削減）は達成する見込み
  - （3）非主食用米（加工用+その他）の作付は、2年産実績に比べ3,664ha増の13,036haの見込み  
うち飼料用米の作付は、2年産実績に比べ3,480ha増の5,345ha

(単位：ha)

区分	水稻全体									
	主食用	加工用	その他	飼料用米	新市場開拓用米	米粉用米	WCS	備蓄用米	その他	
調査結果 ①	103,576	90,540	5,865	7,171	5,345	675	69	681	387	14
R2実績 ②	104,672	95,300	5,858	3,514	1,865	635	51	574	389	—
R3目安 ③	105,769	95,881	5,762	4,126	—	—	—	—	—	—
R2実績との差 ①-②	▲1,096	▲4,760	7	3,657	3,480	40	18	107	▲2	14
R3目安との差 ①-③	▲2,193	▲5,341	103	3,045	—	—	—	—	—	—

## 2 今後の対応について

- （1）農業団体等と連携し、引き続き、各地域における推進目標の達成を働きかけるとともに、6月末の新規需要米取組計画書の提出期限に向けて、全道的な作付転換の取組を推進していく。
- （2）推進の結果、産地交付金（道枠）の減額調整が必要になった場合でも、安心して取り組むことができる支援水準となるよう検討する。
- （3）必要に応じて取組状況等調査を実施し、作付転換の取組状況の把握に努める。

新市場開拓に向けた水田リノベーション事業  
 これまでの経過 及び 今後のスケジュール（5/21時点）

日 時	内 容	備考
12/15(火)	◆第3次補正予算閣議決定	
1/6(水)～ 1/7(木)	◆北海道農業再生協議会水田部会構成員へ産地交付 （道枠）に係る事前説明	
1/18(月)	◆水田フル活用予算に係る地域担当者説明会 （Web会議）	農水省 出席
2/25(木)	◆北海道農業再生協議会幹事会（令和2年度第3回） ○水田リノベーション事業実施に係る道再生協の事 業計画、規約等の変更 ○業務方法書の承認 ◆北海道農業再生協議会水田部会 ○水田リノベーション事業の経過報告	
3/5(金)	◆北海道農業再生協議会総会（書面開催） ○水田リノベーション事業実施に係る道再生協の事 業計画、規約等の変更 ○業務方法書の承認 ◆業務方法書・地域特認メニューの承認申請 （道協議会→国） ◆要望量の報告（道協議会→国）	
3/9(火)	◆業務方法書の承認（国→道協議会）	
3/18(木)	◆北海道農業再生協議会水田部会（令和2年度第4回） ○水田リノベーション事業の要望状況の報告	
3/30(火)	◆採択結果通知（国→道協議会）	
3/31(水)	◆採択結果通知（道協議会→地域協議会）	
4/15(木)	◆都道府県計画書及び産地・実需協働プランの承認申請 （道協議会→国）	
5月下旬	◆都道府県取組計画書及び産地・実需協働プランの 承認、割当内示（国→道協議会）	
5月末まで	◆実需者との契約締結（地域協議会）	
6月下旬～ 7月上旬	◆交付申請	
7月以降～	◆ほ場確認、低コスト生産の取組の書類確認 （地域協議会）	
9月以降～	◆概算払申請	
2月末	◆事業実績報告取りまとめ ◆低コスト生産等の取組の実施状況報告取りまとめ	
3月～4月	◆精算払	